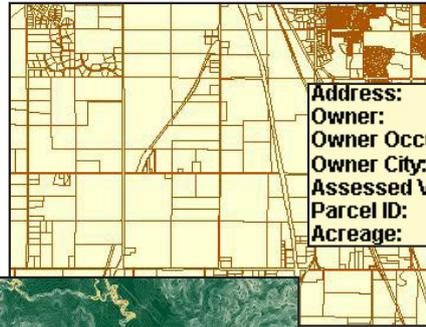


# 適地選定解析

TNTmipsには、都市の様々な土地利用に最適な立地を決める適地選定解析のための強力なツールがあります。都市計画における基本区画の策定はいくつかの条件を用いた初期選択プロセスに基づきます。それは大抵そのプロセスに関わる利害関係者の様々な意見を考慮することになります。適地選定の過程では、様々な主題図レイヤを組み合わせたり、バッファゾーンや傾斜解析などが可能なフレキシブルなGISツールが必要です。専門家は適地選定作業における主題図レイヤの準備や解析処理をTNTmipsに標準の様々なツールを使って行うことができます。他の主題図ベクタオブジェクトから属性を転写することにより、クエリを使って複数条件を満たす要素を簡単に選択することができます。

この例では、傾斜、土地情報(空き地、区画、所有権)、氾濫原の状態、幹線道路からのアクセスなどの数種類の主題図レイヤを使って説明します。土地区画レイヤのポリゴンデータベースに対するクエリを下の図に示します。ここでは次の条件に適合する土地区画を検索します：平均傾斜が10%未満で、50000㎡以上の面積を持ち、空き地だが氾濫原ではなく、幹線道路より500mの緩衝帯の外側に位置する。

条件に合致する土地を探す方法は1つではありません。このような場合、



土地所有者レコードと土地区画パターン

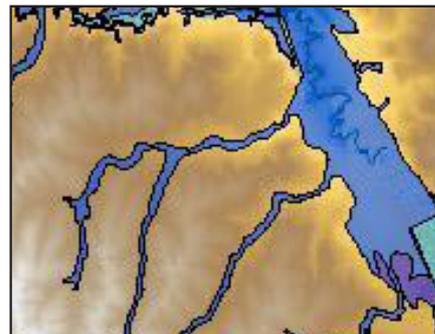
<b>Address:</b>	10600 S 14 ST
<b>Owner:</b>	LEE, DOUGLAS K
<b>Owner Occupied:</b>	Yes
<b>Owner City:</b>	LINCOLN, NE
<b>Assessed Value:</b>	\$162800
<b>Parcel ID:</b>	09-36-100-003-000
<b>Acreage:</b>	8.688 acres



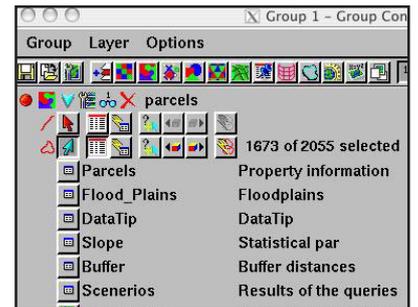
度単位で計算した傾斜レイヤ



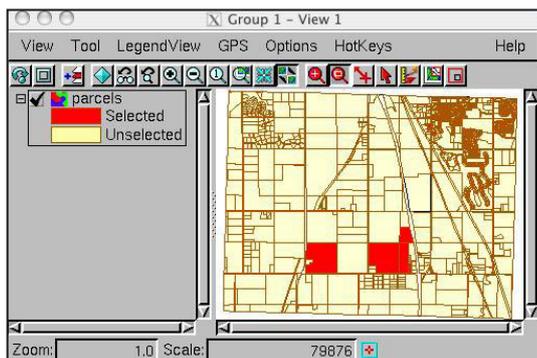
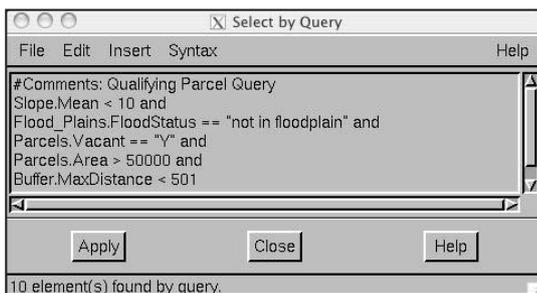
幹線道路からのマルチ・バッファゾーン (300, 500, 1500 m)



標高ラスタの上に重ねて表示した半透明の氾濫原ベクタオブジェクト



他のベクタオブジェクトから転写したテーブル



属性による土地区画ベクタオブジェクトの表示。条件に合う土地区画が選択されています。

土地区画ポリゴンデータベースに対するクエリを作るのが一番簡単な方法です。この方法では、氾濫原や緩衝帯の距離、傾斜などの他のレイヤに属するテーブルを、クエリを適用する土地区画レイヤのポリゴンデータベースに転写します。

主題図レイヤはTNTmipsを利用して次のように作ります。土地区画の空き地情報と面積は土地区画テーブルにおいて別々に存在します。傾斜分析用のラスタレイヤは「ラスタ/標高/地形特性(Raster/Elevation/Surface Properties)」処理を使うことで角度の度単位又はパーセント値で作ることができます。このラスタレイヤの傾斜テーブルを土地区画レイヤのテーブルとして使うため、土地区分毎の傾斜の統計値を計算するツールを利用します。(「各種図形/属性/ラスタの集計(Geometrics/Attributes/Raster Properties)」処理)。緩衝地帯は「各種図形/計算/緩衝域(バッファゾーン)(Geometrics/Compute/BufferZones)」処理を使って計算します。これらの主題図レイヤを用意した後、氾濫原や緩衝地帯の距離のベクタオブジェクトのテーブルを土地区画レイヤへ転写します(「各種図形/属性/属性の転写(Geometrics/Attributes/Transfer Attributes)」処理)。以上の操作で、必要な属性全てがアタッチされた1つのベクタレイヤが得られ、上で述べた条件に基づいてクエリを行うことができます。